1. 取組内容の進捗状況（2023年度）

【東日本国際大学】

【未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業】（採択年度 2023年度）

■ 交流プログラムの実施状況

〈 ホストファミリーたちによる空港での出迎え 〉

- 日本側学生10名が2024年3月1日～17日までの17日間連携大学に滞在、原子力災害からの復興創生にかかわる現地調査（現地に残る原子炉の見学や、歴史博物館の訪問、ネイティブアメリカンの生活や文化を紹介する博物館の訪問、世界的な生産高を誇るポテトチップス工場やワイナリーの視察）、ハンフォード歴史プロジェクトの学習や、様々な授業への参加に加え、日本文化クラブとの交流、マルチカルチュラルフェスティバルなども現地学生と共同で企画・実施、学生間の交流が進み、現地プログラムに参加した学生は、令和6年度（2024年度）のアメリカからの学生の受け入れに際して積極的に動いている。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

学生からの関心も高く、当初予定していた人数6名を大幅に上回る10名の派遣

○ 外国人留学生の受入

2024年度に計画人数4名を上回る5名を受け入れ予定

	2023	
	計画	実績
学生の派遣	6	10
学生の受入		

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 副学長を代表とするスタッフが、2023年11月後半から12月前半に、米国側を訪問し、連携大学の学長、副学長、本プロジェクトの担当者に対して、本プロジェクトの趣旨、内容等について説明、本プロジェクトを継続して共同で実施していくことについて相互了解を確立
- 本プロジェクトを具体的な内容等を検討するために、メールに加え、月1～2回程度の頻度でZoom会議を米国側（教学最高責任者や副学長等も含む）と継続して実施（それぞれの国の文脈における質保証について、原理的な話題から具体的な実務までを討議）
- 2024年3月6日(ハンフォード)、3月7日(福島)に、2023年度日米共同ワークショップ(米国側参加者8名、日本側参加者7名)を、Zoomを活用して実施し、日米間で構築するカリキュラムの内容、講義方法等について議論
- アセスメントと科学と人間の関係についてをそれぞれ専門分野とする2名の専任教職員を配置
- EnglishScoreとBEVIを利用したアセスメント体制の構築推進

〈日米共同で連携して設計したオンラインコンテンツ〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 学生の派遣に際しては、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(協定派遣)の制度だけでなく、一般社団法人「福島浜通りトライデック」からも支援。
- 現地では連携大学がホームステイ先の調整に動いてくれた。受け入れについても同様にホームステイ等を活用し、手厚い対応を行う。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- 学生の留学機運が高まり、本事業外においても、トビタテ！留学JAPANでの留学希望者も増加。
- 2023年度の日本人学生の派遣に際しては、2024年2月にマスコミにも公開して結団式を、2024年6月にはマスコミをふくめ広く一般市民にも公開して研修報告会を実施した。その様子は新聞等にも掲載された。

■ グッドプラクティス等

- 米国側との密接な連携関係が構築され、留学プログラムについて多面的に検討・実装できつつあること
- 日米双方において、相互に学生が交流するだけでなく、地域として他国の学生を受け入れ、地域と地域が結びつく地域の国際化につながりつつあること
- 大学と大学だけでなく、地域に立地する研究機関・機構を巻き込んだ展開となりつつあること